教育実践リフレクションIII

必修　　2単位

町支　大祐・小山　恵美子・細戸　一佳・
荒巻　恵子・魚山　秀介・鈴木　康仁・
五十嵐　義征・蒲地　啓子・前島　正明・
石井　卓之・爲川　雄二・杉山　正宏・
建部　　豊・嶋津　常弘・及川　利紀・
坂本　和良

1. 授業の概要（ねらい）

授業は、少人数グループ編成のもと、複数の教員によるティーム・ティーチングの形態で行う。

心理学・現象学・経営学・社会学が捉えるリフレクション論について講義を通して理解を深めるとともに、対話型、ワーク型、協働型の活動を通したリフレクションの実践を経験することで、参加者の「観」がより豊かになることである。加えて、そうしたリフレクションを促すことができる手法や姿勢を身につけることである。

この授業におけるリフレクションは、次の3つの視点から行う

①個人視点のリフレクション：教師としての行動・思考についてリフレクションする
②組織視点のリフレクション：所属する組織のあり方についてリフレクションする
③社会視点のリフレクション：社会における教育課題についてリフレクションする

2. 授業の到達目標

＜A類学生＞
・リフレクションの意義・手法を理解し、それを生かして自己の実習場面や過去の経験を多様な視点からリフレクションし、実践力を向上させていくことができる。
＜B類学生＞
・リフレクションの意義・手法を理解し、これまでの自己の実践や経験を多様な視点からリフレクションし、実践力や課題探求力を向上させるとともに、A類学生のリフレクションについて指導助言することができる。

3. 成績評価の方法および基準

リフレクションの実際（20%）、レポート・まとめ（60%）、グループワーク等（20%）を参考にして総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書
坂田哲人、中田正弘、村井尚子、矢野博之、山辺恵理子　リフレクション入門　学文社2019
参考文献
F・コルトハーヘン　教師教育学　学文社2010

5. 準備学修の内容

各自の教育実践、教育実習に対するリフレクションの記録を実習ノート等に、継続的に記録すること。

6. その他履修上の注意事項

リフレクションの意義や手法を、理論と実践から理解し、省察的な教師を目指すことを期待する。LMSについては授業開始時に指示する。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション：教師の仕事と「観」について考える（講義&ワーク型活動）
【第2回】　個人視点のリフレクション：自らの「観」に目を向け、言語化する（講義&対話型活動）
【第3回】　組織視点のリフレクション：他者の「観」に目を向け、対話することを通じて、リフレクションにおける自己開示について考える（講義&ワーク型活動）
【第4回】　個人視点のリフレクション：「観」とリフレクションの関係について理解する（講義&対話型活動）
【第5回】　組織視点のリフレクション：「観」を扱うのに適した組織内コミュニケーションのあり方について検討する（講義&ワーク型活動）
【第6回】　個人視点のリフレクション：ALACTモデルを用いたリフレクションについて理解し、実践する（講義&ワーク型活動）
【第7回】　個人視点のリフレクション：ALACTモデルを用いたリフレクションについて実践する（ワーク型活動）
【第8回】　社会視点のリフレクション：社会における教育課題についての対話を通じて、自己のあり方を検討する（対話型活動）
【第9回】　組織視点のリフレクション：ワークを通じて、リフレクションに適した組織内のコミュニケーションのあり方について再度検討する（ワーク型活動）
【第10回】　個人視点のリフレクション：ALACTモデルなどを用いたリフレクションについて実践する（対話型活動）
【第11回】　組織視点のリフレクション：ツールを用い、リフレクションに適したコミュニケーションのあり方について再度検討する（ワーク型活動）
※研究科内外の実践家との協働的なリフレクションを行う
【第12回】　個人&組織視点のリフレクション：簡易型AIワークショップを用いたリフレクションについて実践する（ワーク型活動）
【第13回】　個人視点のリフレクション：ALACTモデルなどを用いたリフレクションについて実践する（対話型活動）
【第14回】　個人&組織視点のリフレクション：前期の本授業について振り返る（対話型活動）
【第15回】　＜まとめ＞
・リフレクションを通じて得られた自己の成果・課題及びリフレクションそのものについてまとめ、報告する。